

令和3年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立別府支援学校本校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評 価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	校長のリーダーシップのもと、目の前の課題を解決するため全教職員で努力を続けている。多様な生徒に対応した学校のビジョンを示すことが望まれる。
	2 組織的運営・責任体制	* 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	「運営委員会」が組織され常に主任等が参加し、管理職と適切に情報共有がされている。また、学部主事と分掌主任の連携が強化されており、総合的に円滑な運営が行われている。
	3 服務監督・危機管理体制	* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時の迅速で適切な対応 * 法令に則った医療的ケア実施体制の整備	学校内規、危機管理マニュアル等が適切に整備されており、ヒヤリ・ハット報告の職員間の共有がされている。防災委員会に地域の関係者が参加し防災委員会を開催するなど地域との連携は評価できる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組	学校ホームページを活用し、保護者や地域に向けて、情報発信・公開がされている。学校は、保護者や地域住民からの意見を把握するよう取り組みを行っている点は、評価できる。
	5 センターの機能	* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 * 組織的に取り組む校内体制の整備	小・中学校等の要請に応じ、巡回相談などに取り組んでいる。対応困難な児童生徒の指導ノウハウの蓄積を小中学校等に還元する取り組みが望まれる。
学習指導	1 授業	* 障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導 * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	教師間の連携が図られ、多様化する生徒のニーズに丁寧に向き合い授業が展開されている。卒業後の自立と社会参加に向けて、「働く」ことに結びつくカリキュラム、進路指導の充実が望まれる。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	* チェックリスト等に基づく実態把握の実施 * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 * 保護者等と連携した教育支援計画の作成、長期的視点の支援	自立活動コーディネーターを配置し、児童生徒の実態に即した指導を行っている。保護者などをメンバーとするケース会議が全校の半数程度で実施されている点は、評価できる。
	3 授業研究・授業改善	* 社会のニーズや学校の教育課題等に基づく学校研究への取組 * 計画的な授業研究の実施等による授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	カリキュラム・マネジメントの実践研究をおこなっており、今後の成果に期待する。また、パソコンを用いたパンフレット作りなどICTを活用した取り組みは、実社会に役立つ先進的な取り組みとして評価できる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握	児童養護施設、医療機関等との連携のもとキャリア教育を進めている。多様な生徒及び保護者のニーズに丁寧に対応し、生徒の可能性を引き出す取り組みは評価できる。定着支援については、広範囲にわたるが柔軟に対応していた。
	2 就業体験の機会の確保	* 福祉・労働施策や関係機関の事業等の情報収集の取組 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	実習先や就労先の確保に向け開拓などを積極的に行っている。生徒が学ぶ作業学習を目指して取り組まれていた。ネットによる遠隔就労を目指した新しい作業種について検討することが望まれる。
	3 職場開拓	* 地域の企業、福祉・労働の関係機関等との密接な連携 * 教職員・保護者が一丸となった職場開拓	関係機関との連携体制は構築できており、情報の共有等が図られている。また、ワーキングフェアを実施し地域連帯も進めており、今後の成果を期待する。
豊かな心・健やかな体の育成	1 社会自立に向けた教育	* 互いの良さを認め合い、豊かな人間関係を形成できる幼児児童生徒を育成 * 卒業後に必要とされる力を踏まえ、各学部段階において適切に指導	県内全域から「病弱」の生徒が急増し、指導の困難さがあるが、児童生徒の表情は、とてもよい授業が多かった。また、情報モラル教育では、外部講師を招いた実践的な取り組みは評価できる。
	2 生徒指導	* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組	校内ケース会議・サポート会議、いじめ・不登校対策会議等を開催し、児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携している。また、個に応じた指導により、児童生徒の自己肯定感が高まっている様子がうかがえた。
	3 教育相談	* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、保護者や児童生徒に対し、専門的な立場から助言を行っている。
	4 特別活動	* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組	コロナ禍であるが、近隣の学校や居住地の学校等との交流及び共同学習に取り組んでいる。
	5 安全管理・医療的ケア	* 教職員間で迅速に情報共有する体制が確立 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制が整備	日常の健康観察や疾病予防、児童生徒の健康管理のための取り組みを適切に実施しており、職員間でヒヤリ・ハットの報告と共有がされている。授業参観した教室の中に、整理整頓が必要な教室が見られたので改善が望まれる。
全般	障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	* 教育活動全般にわたる、障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	個々の障がいや行動上の課題が多岐にわたっており、児童施設からの通学者など家庭との連携が困難なケースが少なくない。児童生徒が自分らしく学べる教育の場としての充実が望まれる。
総合評価	多様な困難を抱える児童生徒に対して、関係機関等と連携しながら学校全体で取り組みを進めており、前回訪問時と比べ、児童生徒の落ち着きも見られる。多様な児童生徒への対応については、多くの時間や粘り強さが必要となるが、他県の取り組みで明らかになっていること（例えば、肯定的自己理解を促し、実体験で憧れを育む等）を参考に、どのような教育をするのか、何をを目指すのかについて教育課程の改善を通して具体化することが望まれる。		
校長コメント	本校は、全県から病弱児が入学しており、個々の障がいや病気、行動面の課題が多様化しているため、日々教職員一丸となって指導支援を模索する面と、重度重複を含む肢体不自由児への専門的なアプローチが必要な面を併せ持った学校です。教育課程をはじめ、他機関との連携等、日々様々な課題に取り組んできました。今回の第三者評価を通して、本校の状況をご理解いただくと共に、専門的な視点から評価していただき、誠にありがとうございました。今後は、今回いただいた評価をもとに、全職員が児童生徒一人ひとりを大切に、すべての児童生徒の学びの場としての学校の在り方について、他機関と連携しながら探っていききたいと思います。更に、児童生徒の実態に沿った教育課程の改善を進めていきます。		